

令和元年度

事業所名： グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100103		
法人名	株式会社 アルテライフ		
事業所名	グループホーム えがおの花大釜(あやめ)		
所在地	〒020-0763 岩手県滝沢市大釜大畑72-6		
自己評価作成日	令和元年11月22日	評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家族を入居させたいと思えるような施設を目標に、今いる入居者さんやそのご家族様とも、より良い関係を気付くように心掛けています。共同生活の中で、その人の役割が持てるよう、色々なことを職員と一緒に試してみたりします。各ユニットごとに誕生日会にはケーキを作ったり、入居者さんと外食に出かけたりなどしております。他には季節ごとのイベントで、お花見のドライブやリンゴ狩りなどのイベントも行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0392100103-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡市に隣接した新興住宅地に位置し、事業所の周辺には大型のショッピングセンターやコンビニエンスストアがある。自治会に加入し、運営推進会議を敬老会、避難訓練、夕食試食会等の行事と併せて開催し、利用者との懇談する機会を設けるなどして、事業所運営について理解を得られるように取り組んでいる。市地域包括支援センターと市内の4グループホームと一緒に利用者も参加できる認知症カフェを月1回市内の喫茶店で開催し、また、市から認知症まちなか相談室事業を受託するなど、地域の認知症ケアに対する理解を深めるための活動を積極的に行っている。運営にあたっては、法人の運営理念、行動指針や事業所の基本理念、運営方針に基づき、各ユニットごとに毎月の運営目標を決め、前月の反省等を踏まえ新たに運営目標を定め、より良い利用者支援ができるよう取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年12月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に研修で取り上げるなどして職員間での共有に努めている。目に付く場所に掲示し、意識付けを行っている。	法人運営理念、行動指針と事業所基本理念、運営方針をホール等に掲示し、毎朝申送りの際に行動指針を唱和し共有を図っている。年1回の全体会議では理念の確認を行うとともに、各ユニットごとに毎月運営目標を定め、理念等の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事にもできるだけ参加するようにしている。	南大釜地区自治会に加入し、地区行事の防災訓練、お祭り、廃品回収等に利用者と一緒に参加している。運営推進会委員の自治会長から地域行事等の情報を得ている。小学2年生が街中体験として年3回来所し、利用者で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症まちかど相談」「認知症カフェ」など、市の委託事業を通じて地域の人との関わりが持てるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	随時報告を行い、話し合いで出された意見を運営に活かしている。	自治会長、民生児童委員、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、駐在所、家族代表で構成され、年間計画を定めて敬老会、避難訓練、夕食試食会等の行事と併せて奇数月に開催し、利用者との懇談の機会を設けるなどして、事業所運営について理解を得られるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当課・地域包括支援センターと随時連携を取り、相談や指導を受けている。	認知症まちかど相談室の受託、市介護相談員の年5回受入れ、市地域包括支援センターや他のグループホームと一緒に認知症カフェ開催、防災行政無線端末の設置など、市とは様々な協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	眠りSCANや、離床センサーなどを使い、夜間の転倒などのリスクを減らしている。身体拘束委員会を開き拘束しないで対応出来るように話し合いを行っている。	身体拘束適正化委員会は、各ユニットから1名が委員となり、3カ月に1回開催している。委員は、職員が理解を深めることが出来るよう、各ユニット会議で委員会で協議した身体拘束の定義等を説明・報告し、拘束しない介助を目指している。スピーチロックについては、その都度注意するとともに、ユニット会議でも話し合っている。睡眠や夜間頻回離床等の利用者4名が介護ロボット眠りスキャン、1名が離床センサーを家族の同意を得て使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックなど、言葉の虐待にならないよう資料などを使い研修を行ったりし啓発に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	先々必要性があると判断した場合は家族に相談したり制度の説明をしたりし、活用に向けて検討していただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にパンフレットを使い説明を十分に行い、了承を得た上で入居していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふだんの生活の中で聞かれた要望、ご家族訪問時に聞かれた要望や意見などを職員で共有し、ケアの向上に努めている。	毎月、行事写真が掲載されている広報誌「すまいる」と併せて居室担当職員から利用者の事業所での生活状況等を文書で家族に報告している。通院等で家族が来所した際は、居室担当職員が中心になって話す機会を設け、意見、要望を聴くようにしている。利用者の思いや要望等は言動や仕草等から汲み取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議のほか、ふだんの業務の中で意見や提案があれば検討し、利用者や職員にとって良いものであれば取り入れるようにしている。	年1回の個人面談や月1回のユニット会議等で、職員の意見を聞く機会を設け、利用者の安全確保のために浴室用車いすの整備や希望する研修への参加など、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設からの研修案内や、スキルアップのための研修受講の希望があれば、勤務上の配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加させたいと思っているが、シフトの関係でなかなかできない状態。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で交流できるようには思っているが、上記の通りシフトの兼ね合いもありなかなかできないでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の行動や言動を注意深く観察し、困ったことや要望に気づいてあげられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面会時に自分本位になるのではなく、ご家族様の意向を尊重しようと努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員本位のケアにならないよう、他のスタッフと情報を交換、共有、相談をしながら対応するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身が今出来ることを継続、維持出来るよう見守りながら行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族支援による通院。各担当から毎月手紙による状況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	良い関わりができるよう場面に応じた支援をしている。馴染みの方も高齢になり、面会の頻度などが減ってきている方もおられる。	家族、友人、親戚が訪れており、関係が途切れないよう支援している。通院の際に家族と外食を楽しんでいる利用者もいる。2カ月に1回の訪問理容師や大正琴のボランティアグループ等と新たな馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格やその時の気分、体調に合わせて、時には職員が介入したりしながら、利用者同士の関わりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に面会したりもしたが、踏み込んだ支援までは出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を重視し、生活出来るよう努めている。	入居の際のアセスメントにおいて、「聞き取りシート」により思いや意向を把握し、ユニット会議でその情報を共有している。ほとんどの利用者がある程度の意思表示できるので、言動や仕草等から意向の把握に努めている。利用者の誕生日のメニューに「お寿司を食べたい」とのリクエストや「散歩に行きたい」などの希望があり、それに沿って対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、ご本人、ケアマネージャーなどから情報を伺い、職員間でも情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録など、スタッフ間で情報を共有し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、その職員から意見を聞いたり、会議で他の職員から意見を出し合ったりなどしながらチームで考え、計画作成に反映させている。	基本的には、6か月ごとにそれぞれのユニット会議で職員全員でモニタリングと併せて介護計画の見直しを行っている。ぬり絵、編み物等の利用者の趣味活動を継続できるように支援する目標も設定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はもちろん、変化や会話、動作など細かく記録し、職員間で共有、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や通院の支援などはしているが、多機能化は難しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の協力を得てイベントを行ったり、地域のイベントに参加したり、気分転換や楽しんでもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態、家族の意向も踏まえ、適切に受診出来るよう支援している。	入居前のかかりつけ医を継続することを原則とし、ほとんどの利用者が継続受診している。利用者等の都合により、訪問診療を受けている方は1名いる。通院については、家族同行を原則としているが、半数の利用者は職員が通院介助している。事業所での普段の様子を「申し送り用紙」に記入し、通院の際に家族が持参できるようにしている。受診結果は、その用紙の備考欄に記入してもらい、事業所でも診療状況等を把握できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の方が週に一度来ていただいているので、本人の状態などを報告したり相談などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は病院との情報交換や相談はしているが、備えての関係づくりまでは出来ていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からはしてはいないが必要だとは感じている。	入居時に重度化した場合等に事業所ができることを家族や利用者に説明し、同意を得ている。看取り介護について、過去には実績があり、経験した職員もいる。訪問診療を行っているかかりつけ医と訪問看護ステーションの支援や協力を得て、事業所で最後まで暮らしたい意向の利用者が1名いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網はあるが、初期対応の訓練などは定期的に行えてはいない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方と避難訓練は行っているが、安全に避難できるような協力体制までは築けていないと思う。	年2回の避難訓練には、運営推進会議を併せて開催し、委員も参加している。1回は消防署の協力を得て実施し、地域住民2名も参加している。避難訓練を通じ、誘導や近隣住民等の協力を得るためには大きな声で伝えることが必要との改善点が挙げられた。3日分の食料を備蓄し、反射式ストーブ、ガスコンロも備えている。警備会社の総合防犯システムに加入しており、緊急時はすぐに駆けつけてもらえる体制となっている。	避難訓練に地域住民の参加もあり、今後も引き続き地域の協力を得られるよう努めるとともに、避難訓練を通じて挙げられた改善点等を踏まえ、実態に即した避難マニュアルの見直し等を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけてはいるが十分とは言えないと思う。	入居時に家族から利用者の呼び方について確認し、一人一人の人格を尊重し、誇りを傷つけないような言葉かけでの対応に努めている。トイレ誘導は、さりげない言葉かけを行うようにしており、居室に入る時には、ノックをするなど、確認してから対応するようしている。とっさの時に不適切な言葉かけをすることがあるので、ユニット会議で話し合い改善に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを言えない方もいると思うので、表情や行動からも読み取るよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りペースを合わせ過ぎていただけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、清潔感を心掛け、家族様から了解を得られた時など、一緒に買い物に出かけ本人に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器拭きなど手伝ってもらっている。咀嚼や嚥下機能の低下がみられる方には、ミキサー食やとろみをつけるなどの工夫をして対応している。	献立ソフトを活用し、利用者から希望等を伺いながら職員が献立を立てている。利用者は、職員と一緒に食器拭き、下膳等を楽しそうに行っている。また、事業所の菜園で職員と一緒にトマト、大葉、サツマイモ等を収穫したり、食材を買いに出かけている。誕生日には、リクエストメニューとして、寿司希望の場合は回転寿司に行くなどの対応している。敬老会の和食仕出し弁当、正月料理等、行事食も利用者の希望を踏まえて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や調理の仕方を工夫し、摂取量の記録を取りその人に合った支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分でできる方は声かけを行い、夜間は義歯を預かり洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力に向けた支援は難しいので現状を維持するような支援になっている。	排泄チェック表により利用者それぞれのパターンを把握し、誘導を行いトイレで排泄している。歩行器を利用している1名の利用者は、間に合わないことがあるので、夜間のみポータブルトイレを使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、飲食別や腹部マッサージ、医師からの指示がある場合は下剤などで予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯などは決まっているが、その日の体調や本人の意思も尊重している。	週2回の入浴を基本とし、着替えの準備から入浴後の爪切りまで1対1で45分位をかけて対応している。異性介助について、拒否する利用者はいない。浴槽に入りながら職員との会話や歌をうたったりして楽しんでいる。シャンプーやリンスについては、利用者の好みの物を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分などを見ながら声掛けや誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの情報を共有し支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった物や作業、ドライブやレクなど気分転換できるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	業務や職員の人数の都合などで一人ひとりの希望に沿った外出介助は出来ていない。	天気の良い日には、近隣に散歩に出かけたり、プランターの花に水をあげたり、菜園での作業を楽しんでいる。高松の池、手づくり村、ローズガーデン、リンゴ狩りなどにドライブ旅行している。ペランダでミニトマトを見ながら外気浴を行っている。家族同行の通院時に外出にかけ楽しんでくる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本院管理は殆どできていないのでお預かりし、買い物など一緒に行くこともあるが職員が支払いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方は電話などの取次ぎはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾など利用所と一緒に作成したり、日付がわかるようカレンダーを貼り、冬期間は寒く無いようトイレや脱衣所などの温度にも気を付けている。	共有スペースのホールは、テーブルや椅子が置かれ大型のエアコンや加湿器で快適な空間となっている。利用者が職員と一緒に作成した季節の飾りつけや作品が掲示され、本棚には市図書館から読書好きの利用者が借りてきた本が置かれており、思い思いの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなが座れるようソファを3つ置き、好きな位置に座ってテレビを見れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやテレビなど必要な方にはお持ちいただいている。居室入り口にあるメモリアルボックスには思い出の品や写真などを入れている。	居室は、ベッド、洗面台、クローゼットが設置され、エアコンや希望により加湿器で快適に管理されている。馴染みの時計や小タンスを持ち込み、家族写真、絵等を掲示している。居室前には、メモリアルボックスが設置され、写真が飾られているほか中には湯飲み茶わん、ぬいぐるみ等の思い出の品々が入っている。入口の氏名表示は、間違えやすい利用者の場合は名前を大きくするなどの工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センサーやポータブルトイレの使用、居室の位置など安全に配慮している。		